第6章　自然と調和する住みよいまち　第1節　土地利用

所属名称	事務事業名称	事業概要（全体）	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献（最大3つ）	
			会計	投入コスト		活動実績（R2）	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目（任意）
都市計画課	実施計画ランク 最優先	事業の種別 ■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	一般	R1予算現額 0千円	R1決算額 0千円	項目名 ①ヒアリングの実施 ②アンケートの実施 ③現地調査の日数及び回数	指標名 所沢駅周辺におけるグランドデザインの作成	目標設定の考え方・根拠 所沢駅周辺における今後の街づくりの方向性やあり方についてグランドデザインを作成し、市民や事業者とビジョンを共有する。	A	利害関係者となる地域住民等にヒアリングを行い、街の現状や課題の抽出について一定の成果は上げられたが、コロナ禍の影響により、場所や人数、時間などの制限が生じ、コロナ禍に対応した方法等を検討する必要がある。	R2年度に改善した点 利害関係者となる地域住民等にヒアリングを実施し、グランドデザインの作成に向けた課題等を整理した。	11．住み続けられるまちづくりを	
	都市拠点土地利用デザイン推進事業	根拠法令 都市計画法		R2予算現額 5,000千円	R2決算額（見込み） 4,994千円								
		事業の具体的な内容及び目的 本市の中心拠点である所沢駅周辺について、大規模な街づくり事業が完成した後の街の姿を描き、市内外からの来訪者が回遊し賑わう空間づくりが求められている。 本事業は、所沢駅周辺から元町交差点までの旧町地区について、エリアごとの特性を踏まえた街づくりのあり方を検討し、土地利用や都市デザイン、エリアマネジメントの方向性を示すものである。		R1正規職員人件費 0.00 人 0千円 R2正規職員人件費 0.96 人 7,841千円	R1その他職員従事割合 非常勤特別職 0.00 人 臨時職員 0.00 人 R2その他職員従事割合 会年職員 0.00 人	実績 ①19団体33人 ②8町内会 ③5日間のべ26回	R1目標 R1実績 R2目標 現況の把握と課題の抽出 R2実績 現況の把握と課題の抽出 R3目標 グランドデザインの作成	R2目標値が未達成の理由・分析 目標達成済			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み コロナ禍を契機とし、ニューノーマルな対応した今後の都市政策のあり方を盛り込めるよう取組を進める。	どのように貢献したか 利害関係者となる地域住民等にヒアリングを行い、回遊性とにぎわいのある持続可能で人を中心にしたマチづくりに向けた課題の整理を行った。	
	期間 R2～								評価者 都市計画課長　髙野　淳				
都市計画課	実施計画ランク 最優先	事業の種別 ■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	一般	R1予算現額 0千円	R1決算額 0千円	項目名 ①所沢市域全図の更新	指標名 都市計画基礎調査（基準年　令和2年）の実施	目標設定の考え方・根拠 現況を反映した所沢市域全図を用いて、都市計画の策定や見直しに資する都市計画基礎調査を実施する	A	現況を反映した地図を作成した。 R3に都市計画基礎調査の基図として人口、土地利用、建物を効率的に集計し調査を進めていく。	R2年度に改善した点 40分割された市域全図のうち、現況の変化の少ない所は対象から除いた。	11．住み続けられるまちづくりを	
	都市計画基礎調査事業	根拠法令		R2予算現額 16,000千円	R2決算額（見込み） 14,850千円								
		事業の具体的な内容及び目的 都市の健全な発展と秩序ある整備を図るために、都市計画の策定や見直し等を適切に行うことを目的として、都市計画法に基づき5年ごとに行う都市計画基礎調査を実施するものである。 調査に当たっては、現況を反映した所沢市域全図を使用して土地利用状況を整理し、都市における人口、産業、土地利用、交通などの現況を定量的に把握するものである。		R1正規職員人件費 0.00 人 0千円 R2正規職員人件費 0.60 人 4,901千円	R1その他職員従事割合 非常勤特別職 0.00 人 臨時職員 0.00 人 R2その他職員従事割合 会年職員 0.00 人	実績 ①分割図13/40(33.3k㎡)作成	R1目標 R1実績 R2目標 全図作成 R2実績 全図作成 R3目標 都市計画基礎調査	R2目標値が未達成の理由・分析 目標達成済			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み 作成した地図を用いて調査要領に基づいて現況の人口、土地利用、建物だけでなく、変遷について分析できるよう都市計画基礎調査を実施する。	どのように貢献したか 人口、土地利用、建物について調査をするための現況を反映した地図を作製した。	
	期間 R2～								評価者 都市計画課長　髙野　淳				
市街地整備課	実施計画ランク 最優先	事業の種別 ■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	一般	R1予算現額 127,524千円	R1決算額 115,655千円	項目名 ①各地区で開催・出席した説明会、勉強会、役員会、総会の合計数（地元主催を含む） ②上記説明会等への参加者数	指標名 土地利用転換を図る地区数 ・旧暫定逆線引き地区　6地区 （若松町、下安松東、下安松中央、北中、上山口、牛沼） ・土地利用転換推進エリア （三ケ島工業団地、所沢IC、松郷工業団地）	目標設定の考え方・根拠 ・旧暫定逆線引き地区は、土地区画整理事業の実施もしくは用途地域の廃止により解消することを指標とする。 ・土地利用転換推進エリアは、土地区画整理事業の実施により、土地利用が可能となったことをもって指標とする。	B	・旧暫定逆線引き地区で市街化区域編入を目指す2地区のうち、若松町地区は令和2年3月に市街化区域へ編入し、下安松東地区は地権者組織により土地区画整理事業の実施に向けてより具体的な検討を行った。 ・旧暫定逆線引き地区で用途地域の廃止を目指す北中、上山口、牛沼地区については、必要な都市計画手続きを進め、令和3年4月1日付で用途地域を廃止した。 ・土地利用転換推進エリアのうち三ケ島工業団地周辺地区について、地権者組織により土地区画整理事業の実施に向けてより具体的な検討を行った。	R2年度に改善した点 地区ごとの事業の進捗にあわせて補助金の支出を調整し、若松町地区の補助金を令和3年度で終了した。	8．働きがいも経済成長も 9．産業と技術革新の基盤を作ろう	
	土地利用転換推進事業	根拠法令 都市計画法、土地区画整理法		R2予算現額 610,759千円	R2決算額（見込み） 610,759千円								
		事業の具体的な内容及び目的 市域を総合的に捉え、都市機能の無秩序な拡散防止と自然環境との調和に配慮しながら、定住人口や交流人口の増加、地域の活性化を図るため、計画的かつ適正な土地利用の転換をめざすものである。		R1正規職員人件費 3.76 人 31,253千円 R2正規職員人件費 6.82 人 55,706千円	R1その他職員従事割合 非常勤特別職 0.00 人 臨時職員 0.00 人 R2その他職員従事割合 会年職員 0.00 人	実績 ①27回 ②434人	R1目標 9地区 R1実績 1地区 R2目標 8地区 R2実績 0地区 R3目標 3地区	R2目標値が未達成の理由・分析 土地利用転換は、都市計画、農地、環境等の関連分野について、関係機関等の協議を継続的に進める中、長期的な取り組みが必要である。各年度の活動は、その時点で必要な協議を着実に進めることが中心となる。			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み 都市計画変更及び土地区画整理事業認可等の手続を滞りなく進めるため、県をはじめとする関係機関との協議を行うとともに、地権者及び近隣住民へ丁寧に説明し理解を求めた。	どのように貢献したか 土地区画整理事業の実施により、地区計画制度等の活用によって安全で安心な街づくりを進める。	11．住み続けられるまちづくりを	
	期間 H29～R20								評価者 市街地整備課長　鎌田　実幸				

所属名称	事務事業名称	事業概要（全体）	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献（最大3つ）	
			会計	投入コスト		活動実績（R2）	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目（任意）
都市計画課	実施計画ランク 優先 景観まちづくり推進事業 期間 H23～	事業の種別 ■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加 根拠法令 所沢市ひと・まち・みどりの景観条例、景観法 事業の具体的な内容及び目的 具体的な内容 ・景観まちづくりに取り組む景観市民活動クラブが、円滑に活動できるよう情報の発信、場の提供や代表者会議の開催などを行う。 ・市民から「景観資源候補」を募集し、所沢らしい良好な景観の形成に資するものを「とことこ景観資源」として指定し、公表する。 ・所沢市景観審議会が選定した「とことこ景観賞候補」を、市長が「とことこ景観賞」として表彰する。 目的 所沢らしい良好な景観の形成を推進する。	一般	R1予算現額 2,011千円 R2予算現額 1,765千円 R1正規職員人件費 1.62 人 13,465千円 R2正規職員人件費 1.55 人 12,660千円	R1決算額 1,851千円 R2決算額（見込み） 1,290千円 R1その他職員従事割合 非常勤特別職 0.00 人 臨時職員 0.50 人 R2その他職員従事割合 会年職員 0.30 人	項目名 ①景観市民活動クラブの登録団体数 ②とことこ景観資源の指定件数 ③とことこガーデンの指定件数 実績 ①9 ②215 ③137	指標名 （令和元年度より） とことこ景観資源の指定件数 R1目標 199 R2目標 202 R3目標 208 R1実績 194 R2実績 215	目標設定の考え方・根拠 景観資源の登録数を増やすことで、市民に周知できる良好な景観資源が増加するため、間接的に景観に係る興味や満足度を上げることに繋がる。 R2目標値が未達成の理由・分析 目標達成済	A	景観市民活動クラブ登録団体数、とことこガーデン指定件数はいずれも横ばいとなっており、引き続き景観施策の効果を検証する必要がある。 とことこ景観資源指定数については、既に申請されていた景観資源候補所有者の同意が順調に得られたこと、指定同意を前提とした景観資源登録申請が複数あったことから増加に繋がった。 評価者 都市計画課長　髙野　淳	R2年度に改善した点 所沢市景観審議会を開催し、今後の景観計画見直しの方向性案について意見交換を行ない、了承された。 事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み 引き続き他市の取組みを研究するとともに、今後も景観審議会で議論の場を設け、施策体系を見直していく。	11．住み続けられるまちづくりを どのように貢献したか 景観施策を推進することで、市民が住み続けたいと思える街並み形成や居心地の良さに寄与した	